

安倍首相のキエフ訪問

平和統一 NEWS No.83 (2015/7月号)

渡辺 久義

安倍首相が、ウクライナのポロシェンコ大統領を訪問したという6月7日のニュースは、私を一瞬どきりとさせた。これが安倍さんの自発的行動とはどうてい考えられないから、これはアメリカのおそらく強要に近い要請によるものであろう。せりふも報道による限り、ロシアの、力による領土の「現状変更は認めない」という、米政府とその従僕政府 (vassal governments) の主張そのままである。これは我が国もまたワシントンの従僕国であることを、改めて世界に確認させる行動であった。何とも残酷である！　いま世界で一番会いたくない人は、ネオナチとしてアメリカに利用され、米主導のクーデタによって政権についたポロシェンコのはずである。私はせめて安倍さんには、「ミンスク合意」を守って戦争をやめるように、彼に言って欲しかったが、報道による限り、言わなかったようである。

世界がどの程度これを問題にしたか知らないが、少なくとも RT (ロシア・トゥデイ) は報じなかった。日本の“独自の働き”など、そもそも誰も期待していないということなのか？　もちろん不満はあるが、安倍さんの行動を責めることはできない。誰が首相でも、安全のためには同じことをしたであろう。現在のワシントンが正常な状態でないことは、観察していれば誰にでもわかる。「狂気」「悪魔的」といった言葉が、今の米政府を評する普通の言葉になっている。要するに“キチガイに刃物”状態で、何をするか分からないのだから、国民の安全のためには言うことを聞いておくのが賢明である。それはひどい、そんなことはないだろうという人があれば、最近の我々のブログ www.dcsociety.org をちょっとでも覗いていただきたい。十分に納得できるはずである。

もし私の推測が当たっているなら、今の米政権が、ガキ大将の本性——アメリカの **exceptionalism** と美名で言われる——をむき出しにして、子分である日本の忠誠心を試すために、ウクライナまで行って踏絵をふませたのだと考えられる。これは「お前、あのコンビニで菓子をかっぱらってこい」と命ずる年長の不良少年にも似ている。

レーガン大統領の閣僚だったポール・クレイグ・ロバーツによれば、米政府 - 主流メディアによる「ロシアとロシア大統領についてのウソがあまりにもひどく、大破壊戦争にもなりそうな勢いなので」アメリカの有識者若干名が設立委員となって、「東西協調のための米委員会」(eastwestaccord.com) が設立されたという。(ついでに言えば、12年前のイラク侵略

の首謀者として、当時のブッシュ政権の何名かが、世界の有力弁護士団によって正式に告訴された。6/17「元米連邦検事が、ブッシュの不法なイラク戦争の集団告訴に加わる」参照。）

“悪魔化” されているプーチン大統領に対する P・C・ロバーツ評は、次のようなものである——

過去においてはこのような挑発は、戦争とは言わないまでも、少なくとも挑発の返報になったものだ。しかしウラジミール・プーチンは、沈着冷静な、人類の誉というべき人物である。彼はこの挑発に対し礼儀正しく不満を述べるが、続けて、ワシントンとワシントンの従僕国家の疑似政府を、ロシアの「パートナー」と呼んでいる——彼らがロシアの敵であるとわかっているにもかかわらず。

プーチンは、脅迫や不法な制裁や、また執拗なプロパガンダに対して、諸政府は互いの国益を尊重すべきであり、共通の利益のために協調すべきであるという声明で応えている。いかなる西側の政治家もこんなふうには言わない。西側の政治家は、ワシントンの愛玩犬である英首相キャメロンのように、ロシアに向かって、ヒトラーの脅迫さえ顔負けの激しい言葉を投げつけている。

読者はぜひ上記サイトの、6/15「プーチン：世界地図に米基地を書き入れてみよ、米露の違いがわかるから」と、6/21「プーチン：ロシアは超大国になりたいのではない、ただ敬意を払って欲しいだけだ」を読んでみていただきたい。前者はイタリアの記者に対するインタビュー内容、後者は RT 記事である。私はその両方の「訳者注」に（ロバーツの記事を読む前に）P・C・ロバーツとほぼ同じことを書いた。日本政府と主流メディアにも、これを読んでほしいと書いた。その時まだ私は、政府がプーチン大統領との会談を予定していることを知らなかった。

さらに、今これを引用した P・C・ロバーツの“Propaganda Reigns in the West” (Information Clearing House) にある、米人記者とのインタビューのこの部分を、日本政府にはぜひ読んでいただきたい。記者が、ロシアが中国と組めば、それは反西側同盟になるのかと聞くと、プーチン「反西側？」——記者「反西側、反アメリカですよ」——プーチン「私の理解する限りの中国を含めて、我々も中国も、敵対して政策を立てる国家はありません。我々は〈敵対して〉同盟を結ぶのではなく、ある目的の〈ために〉、我々の国益を実現する〈ために〉同盟を結ぶのです。」——この一瞬間き返すところに深い意味がある。日本政府は、よく相手を知った上で会談に臨んでいただきたい。